

⑤6 神戸電鉄粟生線三木駅の再生

受賞機関 三木市

キーワード 駅舎及び駅前広場の再生、ふるさと納税、デザイン総選挙

全建賞審査委員会の評価ポイント

焼失した駅舎を市の玄関口として再生した取組。資金獲得に特色のあるプロジェクトであるとともに、官民連携による協議会での議論、市民・利用者へのアンケート調査、デザイン総選挙などを行い多くの人の思いの詰まった市の玄関口として再生した点や、市民が共に作り上げていく連携・共働の手法が維持・管理と美観づくりにポイントになっている点が評価された。

1. はじめに

神戸電鉄粟生線は、兵庫県神戸市北区の鈴蘭台駅から三木市の中心部を通り、小野市の粟生駅までを結ぶ延長29.2kmの路線である。中でも三木駅は昭和13年の開業以来80年もの間、地域の皆様に親しまれてきたが、平成30年3月に発生した火災により下り駅舎が焼失した。

三木市では単なる駅舎の復旧ではなく、駅周辺のにぎわいを創出する新たな市の玄関口として駅舎及び駅前広場の再生を目指した。

2. 事業の概要

市・県・神戸電鉄（株）の3者は、すぐに「神戸電鉄粟生線三木駅再生検討協議会」を立ち上げ、焼失から11日後には第1回協議会を開催し、再生に向けて動き出した。計画策定に当たっては、市民や利用者の声を反映するため、アンケート調査を実施し、要望の上位3つ「バス停」、「タクシー乗り場」、「駐輪場」設置を駅前広場の計画に反映させた。

また、駅舎デザインについては、デザイン総選挙を実施し、「A案 旧駅舎・レトロ風」、「B案 モダン風」、「C案 城下町風」から投票数の最も多かった「B案 モダン風」を採用した。

さらに、三木駅舎の工事費（170百万円）については、ふるさと納税（135百万円）及び寄附金（11百万円）を活用することとした。



神戸電鉄三木駅の新駅舎

3. 事業の成果

令和4年3月に新駅舎が、5月に駅前広場が完成した。アンケート調査やデザイン総選挙を実施したことで、市民や利用者など多くの方の思いの詰まった新たな市のシンボルとして再生を果たすことができた。

また、市観光協会も新駅舎に移転し、ますます便利な交通結節点として、多くの方にご利用いただいている。



駅前広場の概略平面図

4. おわりに

神戸電鉄粟生線では、「乗って残そう未来の粟生線」をスローガンとして利用促進や地域活性化に取り組んでいる。そうした中、火災がきっかけの再生ではあったが、本事業を通して多くの方の支援をいただくとともに、市民や利用者のアンケート回答や投票などの思いを形にすることができた。

今後も、三木市の交通結節点として、ますます多くの方にご利用いただけるよう維持・管理に努めていきたい。

賛助会員 中央コンサルタンツ(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ